

ヘゴ自生北限地帯

【所在地】南薩摩市笠沙町・薩摩川内市里村・上甌村・下甌村，肝属郡南大隅町・肝付町

【種別】国指定天然記念物

【指定年月日】大正 15 年 10 月 27 日



肝属郡根占町のヘゴ自生地

肝属郡根占町のヘゴ自生地

ヘゴは熱帯・亜熱帯性のシダ植物の一種で、幹の高さが 4 m にもなるヘゴ科の木生シダである。幹の表面には葉柄の跡が残り、不定根に覆われ、頂には長さ 2 m に達する葉が笠状に開き、柄には中軸とともに刺が密生している。葉面は鋸状に分かれ、裏面の中脈近くに孢子のう群があって、孢子を散布して繁殖する。

日本では、小笠原諸島，伊豆諸島，沖縄，奄美諸島，種子島，屋久島，九州南部に自生しており，五島列島，紀伊半島の一部にも分布している。鹿児島県では，上記の指定地以外にも出水郡長島町に県の指定地があり，阿久根市，垂水市，佐多町などにも自生が知られている。指定地では，一時盗掘等のため減少したが，甌島をはじめ各地において幼木の発生が認められ，増加の兆しがある。

ヘゴなどの木生シダは古生代後期に繁殖し，陸上で大森林を形成した植物の仲間であり，化石等でもよく産出される。現在，世界の熱帯・亜熱帯地域に約 800 種があると推定され，日本でのこの仲間は本種と奄美大島以南に自生するヒカゲヘゴなど 8 種が知られている。ヘゴ自生北限地帯は，この植物の自然繁殖の北限を示すもので，わが国の学術上重要な地域として指定されている。